

「ジェロントロジー研究報告 No. 16」掲載内容

※共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	所属	研究テーマ
共同	宇良 千秋	東京都健康長寿医療センター研究所・研究員	認知症共生社会における地域資源としての寺院の可能性：お寺での介護者カフェの効果
単独	王 聰	東京大学大学院農学生命科学研究科・大学院生	原発事故被災地における高齢者家計の現状と課題に関する社会福祉学的研究—福島県を事例として—
単独	春日 彩花	大阪大学大学院人間科学研究科・助教	「知恵」の形態と生活文脈の関連—人生を通じて発達する「知恵」とは何か？—
共同	辛島 順子	実践女子大学生生活科学部食生活科学科・准教授	地域包括支援センターにおける地域在住高齢者の低栄養予防・改善への取り組み～栄養管理の実際と管理栄養士との連携に焦点を当てて～
共同	菊地 眞海	北海道大学大学院保健科学院・大学院生	「高齢者の地域を基盤とした人々とのつながり観」測定ツールの開発と理論的検証
共同	久米 裕	秋田大学・教授	社会的フレイル改善に関する高齢期の生活リズム構成要素を明らかにする包括的研究
共同	齋藤 崇志	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害福祉研究部・研究員	高齢者の視覚リハビリテーションに関するニーズをアセスメントするための指標の開発
共同	清水 佑輔	東京大学大学院人文社会系研究科・大学院生	高齢者への否定的な規範的ステレオタイプが広く存在する。本研究では日本の規範的ステレオタイプを幅広く調査し、その軽減策を示す。特に高齢者の社会参加に着目し、その利点を人々に伝えることの効果を実証する。
共同	庄嶋 健作	兵庫医科大学医学部・助教	サクセスフルエイジングを支える幸福感に寄与する要因の探索
共同	関野 明子	桜美林大学大学院老年学研究科・大学院生	別居介護を選択・継続していくプロセスと、在宅での別居介護を断念する要因を検討し、別居介護の限界点を明らかにして、別居介護支援体制の構築につながる基礎的な知見を獲得するための調査研究
共同	田島 明子	湘南医療大学・教授	介護老人福祉施設における高齢者と動物の共生のための支援技術とケア文化—介護職員へのインタビュー調査とフィールドワークからの考察—
共同	谷田 純	大阪大学大学院情報科学研究科・教授	高齢者に生きがいをもたらす演劇活動を促進するため、先端的光技術の応用による演劇活動支援を導入し、その有効性を明らかにするとともに、高齢者の社会活動寿命を延ばす新たな手法としての可能性を示す。
共同	平山 順子	白百合女子大学生涯発達研究教育センター・研究員	高齢期夫婦のパートナーシップ：「仲の良い」夫婦と「仲の悪い」夫婦」は何が違うのか？なぜ悪くなるのか？
単独	堀 恭子	聖学院大学心理福祉学部心理福祉学科・特任教授	心理職には多職種協働が求められることが多い。「心理面接」や「心理アセスメント」だけでなく、個人や組織を環境との相互作用内で理解して支援することの重要性を研究によって明らかにすることをテーマとしている。
単独	三宅 沙侑美	岡山大学大学院社会文化科学研究科・大学院生	介護士が介護サービス利用者と信頼関係を構築するためのソーシャルスキルデイサービスセンターにおける対人関係形成に関する心理教育法の開発に向けて—
共同	森 裕樹	兵庫県立大学大学院環境人間学研究科・大学院生	元気高齢者の男性にアプローチした通いの場の包括的モデル構築と社会実装
単独	税所 真也	東京大学高齢社会総合研究機構研究員兼東京大学大学院人文社会系研究科研究員	認知症高齢者が地域で最期まで暮らしていくために必要となる条件や要素について成年後見人による支援を切り口として描出する。とくに生活者の視点を重要視するNPO法人や生活協同組合による支援を分析対象とする。